

第2回 障害者自立支援協議会（会議録）

1 日 時

令和4年（2022年）9月22日（木） 13:30～15:45

2 場 所

障害福祉センターひまわり 会議室

3 案 件

1. 各連絡会からの報告

2. 各部会からの報告

（1）地域課題検討部会

（2）地域包括ケアシステム推進部会

3. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議について

4. その他

4 出席者（順不同）

（1）委 員

会 長 上田 哲郎（少路障害者相談支援センター）

副会長 謝 世業（柴原障害者相談支援センター）

委 員 森嶋 翼（豊中市障害児通所支援事業者連絡会）

委 員 井上 康（えーぜっと）

委 員 中島 正恵（豊中市手をつなぐ育成会）

委 員 小西 文明（豊中精神障害者当事者会 HOTT0）

委 員 鍋島 康秀（ピープルウォーク）

委 員 中村 知（豊中市身体不自由児者父母の会）

委 員 松田 勝紀（豊中市障害児者日中活動事業者連絡会）

委 員 星屋 好武（豊中市手をつなぐ育成会）

委 員 坂田 沙知子（豊中市障害相談支援ネットワークえん）

委 員 水上 さゆり（豊中市障害者グループホーム事業者連絡会）

委 員 古田 拓也（豊中市障害者居宅介護・移動支援事業者連絡会）

(2) 事務局

杉本 博一 (中央障害者相談支援センター)
藤原 靖浩 (庄内障害者相談支援センター)
河本 真樹 (障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係長)
中田 安紀 (障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係)
岩崎 剛 (障害福祉課 障害福祉センターひまわり 相談支援擁護係)
橋爪 千恵 (こども相談課 発達支援係)

(3) 傍聴者

1 人

(4) 欠席者

委員 芳賀 大輔 (豊中市障害者就労支援連絡会)

—開 会—

事務局 （欠席者報告、傍聴報告）

会 長 （開会の挨拶）

こんにちは。（開会が）1か月遅れてすいません。障害者権利条約を日本も批准しているのですが、最初の第一審査という日本が権利条約を守っているか否かを国連の人が審査するものが8月にあり、言いたいことがあったので、レポートを出して発言させてもらいました。日本からは100人くらい行っていて、障害者権利委員会の人がいい勧告を出してくれました。勧告をもとに障害者のよりよい生活をもっともっと進めていけたらいいかなと思っています。今日も各部会がいい話を持って来ているので、皆さんからいろいろ意見を出して頂けたらありがたいです。今日もよろしくお願いします。

事務局 （資料確認）

委員の交代について紹介

- ・豊中市障害児通所支援事業者連絡会：郡氏→森嶋氏
- ・豊中市身体不自由児者父母の会：須山氏→中村氏
- ・豊中市障害相談支援ネットワークえん：片山氏→坂田氏

（＊進行の都合により案件4・5から議論する）

案件4. コロナ禍におけるサービス継続、課題検討のための協議の場について

事務局 （【資料3】を用いて説明）

委 員 2点だけ。第7波に入ってから市内障害福祉事業所の感染状況について、事業所数か人数をざっくりでいいので。

グループホーム利用者や日中、在宅など障害者への入院の道筋がひっ迫の状況の中ではなかなか難しいとずっと話をされているが、障害ゆえの特性から総合的な判断での後押しのところで、管理者の熱意で入院先を見つけたということばかりで、福祉課・保健所がこのルートの中で入院先を探したと話を聞かない。問題だと思うが、どの程度真剣に受け止めているのか。

事務局 1点目は報告いただいた分は記録が残っているので、会議の場でお示しできればと考えている。2点目について内容はよくわかるが、入院に繋がる繋がらない部分について介入はなかなかできないのが実態。熱意でできている部分も承知して

いる。入院の相談もいただくが、医療的な判断で在宅療養といわれるとそれ以上は言えない。

委員 障害福祉でできないとして、保健所と自立支援協議会でやり取りする必要があるのでは。

委員 グループホーム連絡会として会議の際は伝えているが、グループホームで一人が（コロナに）なってしまうと施設全員が一斉に陽性になる。また、スタッフも陽性になるため、全員が隔離になる。少しでも防ぐために入院体制の構築が必要とお願いしてきている。それ以外に、早期に発見できる検査体制などを構築してほしい。運よく病院で PCR 検査を受けた、頼み込んで事なきを得たケースばかり。安心して検査できる場所や体制を速やかに取っていただきたい。

委員 自身が陽性になって大変だったことがあった。半日程で熱は下がっていたが、症状が出ている人は断りますとして、PCR 検査を受けられず困った。

案件 5. その他

・医療的ケアのある重症心身障害者支援にかかる施設運営補助について

事務局 （【資料 4】を用いて説明）

・重度障害者等就労支援特別事業について

（【資料 5】を用いて説明）

委員 医療的ケアの対象者について、身体障害者と知的障害者が対象となっているが精神障害者は対象にならないのか。

事務局 基本的に身体障害の方が対象で知的障害があり医療的ケアが必要な場合も対象になる。精神障害の方でも医療的ケアが必要なら対象となる。

委員 対象者を判定スコアなどで限定する必要があるのかな。

事務局 医療的ケアが必要な方は、多くの場合身体障害者手帳が出る。この制度を始めるにあたり市域の調査を行い、対象に漏れがないよう進めている。

両方ともにホームページに載せているので、わからないことがありましたら問い合わせ先に問い合わせ下さい。

案件 2. 各連絡会からの報告

委員 <障害相談支援ネットワークえん>

今年度は年 4 回開催で、直近では 9 月 14 日に第 2 回が開催されました。コロナ禍ではあるのですが、えんは対面を大事にしている。情報共有会議と勉強会でグループワークをすることを相談員は大事にしている。外部の会議体から相談員に出てほしいと声掛けをいただいている。相談員への期待値が高まっている中でもあるが、利用者やご家族、事業所からいろんなご相談をいただき、相談員はどこまでやるのかというのが毎回相談員の悩みとしてあがってきている。今年度はそれをベースに勉強会を進めている。4 回のうち 2 回勉強会をして、皆で学んでどうだったかを振り返って、日々の支援に生かしていくことを大事にしている。

委員 <居宅介護・移動支援事業者連絡会>

ヘルパーの事業所の数は市内では 150 以上あるが、連絡会に加盟しているのは 70 事業所くらいと加盟率は芳しくない。それでも大所帯の連絡会で、講演形式が多く一堂に会するため、コロナ以来連絡会は開催できていません。役員会を年に 1~2 回集まって、集まるのは難しいとの話になる。ヘルパー事業所は 1 か所でコロナが出ると複数の利用者さんの所に行かれていたり、複数の事業者が 1 人の利用者さんに関わっていたりとコロナが出るとかなり影響が大きいところで慎重にならざるを得なく開催できていないのが実状になっている。落ち着いてきたら講演会形式の会議の開催はできるかと思うが、予定が立っていない。

事務局 7 月に全体会を開催しようとしたが、直前でできなかったですね。対面でしようとしていました。

委員 第 7 波があつという間に広がり、書面開催という形で総会だけ何とか行った。

事務局 <グループホーム事業者連絡会>

今年度は BCP の作成を 3 回研修で考えています。BCP とは事業継続計画・避難確保計画というところで、住まいの場であるグループホームは、いち早くこれを作成しておかないといけないだろうというところに、皆さんの意見が集中しましたので、今年度はそれを完成させるという予定で研修を行っています。9 月 13 日に 2 回目が終わり、旧福祉会館でさせていただきました。活発な意見が飛び交いながらも、気づきがたくさんあり、備えることへの大切さを学んでいる最中。次回 11 月に 3 回目が終わり、完成予定となっています。

事務局 <障害者日中活動事業者連絡会>

居宅の連絡会と同じでコロナ禍になり、なかなか開催できていない状況。9月に役員会を開催させていただいた。その間役員の皆さんから、第7波の時から現在もコロナの状況で、他の事業所がどのような対応をされていてどうなのかと不安な声がたくさんあった。そのあたりの情報共有の場として、日中事業者連絡会を開催してはどうかということで、11月11日にできれば対面でグループワークをして、コロナ禍での不安な部分や就労B型の事業所においては工賃が激減して、その対応をどうされているかを情報共有するだけでも大分違うのではないかという話があり、その予定になっています。なかなか1回目もできないとなっていますので、次回コロナの状況は分かりませんが、極力工夫しながら開催に向けて努力していきたいと思っています。

事務局 <就労支援事業者連絡会>

9月に特例子会社の方に来ていただき、民間企業で進めている雇用・就労についての話を対面でさせていただいた。11月に障害者雇用をしている企業に見学に行かれる予定となっている。外部の方を呼ばれたり、年に1回は障害者雇用に積極的に進めている企業の見学会に行かれ、6回は全体会、6回は運営会議で進めている。

委員 <障害児通所支援事業者連絡会>

9月15日に事業所連絡会の研修で51名が参加され、和歌山大学の心理学教室の米澤先生に「愛着障害の理解と支援」のテーマでご講演をいただいた。他者に対する攻撃性等は適切な支援を行わなければ、止めようとするより更に激しくなるといったことを教えていただきました。産んだ・育てた親のせいにするといった間違った愛着障害の理解が世の中にたくさんあることを学びました。また、親としか愛着の形成や修復ができないのではなく、支援者誰にでも形成と修復が可能であることを教えていただいた。具体的な支援方法でどのような順番に関わっていくかという支援についても参加者皆で学びました。「〇〇くん、それやっちゃだめよ」など言うてはだめということも、皆で何百回も言うてしまったという感想を述べていました。学んだ内容を日々の支援に繋がるよう関わっていく良い機会になりました。

豊中市からの連絡事項として、「見守りシステム OTTADÉ！（おったで！）」について放デイにチラシ配布のお願いを受けています。

続いて支援手帳のオンライン化をする実証実験をこども相談課さんで行われており、現在市内の児童発達支援と放デイでヒアリングなどをされています。

続いて医療的ケアが必要なお子さんと家族のための支援ガイドブックが7月22日に発行されたということで紹介を受けています。

案件 3. 各部会からの報告

(1) 地域課題検討部会

部会長 【資料 1】を用いて説明)

委 員 率直に思ったことは、お母さんを頼っている人が多すぎる。もし母親が亡くなったら不穏になりやすい時だと思いました。

委 員 居宅介護の事業所は豊中市に 150 以上ある話題が出ましたが、行動援護の事業所は非常に少なく 15 前後くらい。アンケートを踏まえて行動援護の事業所、行動援護の対象者の方に従事するには強度行動障害に係る研修を受けないといけない。単に資格のための研修でなく、非常に学びが多い研修だったので、機会も広がればいいなと思いました。連絡会としても取り組みたいと思いました。

委 員 一人暮らしをしたいが少ないところは、安心して一人暮らしができるような体制が取れるようなイメージがあれば、どっちも一人暮らししたいが増えると思う。特に行動障害のある方は、集団生活が苦手な方が多いので、本当だったら家族と離れて一人暮らししてほしいと思うけれど、グループホームや入所施設などになる。そういう現実を自分たちがどう受け止めるのかが数字に出てこない問題かなと思う。

世の中の常識がこうだからこれはあかん、これはできる方がいい、障害者やから守らなあかん、支えなあかんとか思いすぎていないか。グループホームや入所施設は安心と一くくりにすることの怖さがある。

部会長 ご意見は今回の豊中モデルを考えていく上で、非常に大事な肝の部分になっていると思っており、豊中モデルは誰にとっての安心か、モデルかをしっかり考えていかないとずれた方向に行ってしまうと今回のアンケートを通じて非常に感じております。支援者の方には支援者目線だけでなく、本人目線で本人ならどう答えるだろうかと時間をかけながら答えを出していただいた経過がある。

部会ではこの結果をもっと深めていく必要があると思っており、皆さんからもっと意見をいただきたく、ワーキングを拡大して皆と一緒に考える場を設けたいと考えています。

部会長 1 点だけ報告。通学支援が 4 月から始まり、この 9 月で半年経過しようとしているが、通学支援のワーキングにおいて過程を追いかけることを自立支援協議会でやっていこうという話がありましたので、当部会で部会を立ち上げていくことになっています。10 月下旬に通学支援のワーキングを行い、学校の状況など報告で

できればと考えています。

（２）地域包括ケアシステム推進部会

部会長 （【資料２】を用いて説明）

委 員 ルールをガチガチに決めすぎず、場の提供からしていく方がいい。

委 員 当事者だけ３～４人で行っている会があり関わっているが、本人は書記の役割を自身で担ってやっている。自分たちでどうして行こうかと話し合えればいいが、場の提供やサポートがあれば運営や広がりなどうまくいくのにというところ。会員を求めたいけれどどこに誰に何を言っていけば集められるかなといったことを当事者から聞いています。

委 員 福祉サービスの枠組みの中に全てを繋げていこう、押し込んでいこうという恣意的なものでなく、インフォーマルなものを地続きにしないと事業者目線での道筋だけを作っていることにならないかと感じる。

部会長 この会議の中だけでは時間が足りないので、また皆さんにご相談をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

会 長 （閉会の挨拶）

まだまだ日本で障害者の権利に対する人権感覚はまだまだなところがあることを、今回国連に行き感じさせられました。「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という当事者の思いを絶えず持つておかないといけないと思う。今後ともよろしくお願いします。

事務局 議事進行の都合で案件を入れ替えさせていただきましたが、皆様ご協力ありがとうございました。予定より時間が超過してしまい申し訳ありませんでした。ご多忙の中ありがとうございました。

—閉 会—